

りそな外為レポート

りそな WEEKLY COLUMN

りそな外為レポート

不要不急の為替売買は自粛せず、りそなグループへ
(P2)

りそな銀行 市場トレーディング室
チーフカスタマーディーラー 井口 慶一

今週のドル円予想レンジ **106.50 ~ 109.50**

りそなWEEKLY COLUMN

世界中に広がるロックダウン (P3)

りそな銀行 総合資金部
朱 文来

- 最初にロックダウン（都市封鎖）を実行した中国では、生産活動が再開
- 都市のロックダウンは経済への打撃は大きいですが、明るい面もある
- グローバル経済は供給ショックから需要ショックへ

2020/4/6

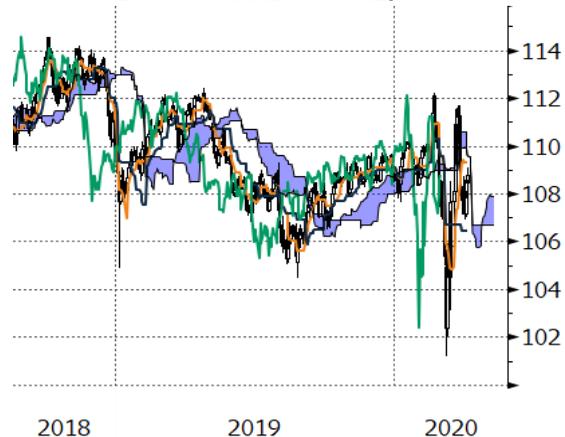
りそな外為レポート

不要不急の為替売買は自粛せず、りそなグループへ

今週のドル円予想レンジ **106.50 ~ 109.50**

(りそな銀行市場トレーディング室予想 発行当日の10時時点)

◆ドル円一目均衡表（日足）



◆為替相場のすすめ

先週は米国の新型コロナウイルス感染者数の大幅増加や米シェールガス大手の破綻が報じられたが、FRBの大量の資金供給などによりパニックモードの再燃には至らず。各国の金融政策と財政政策が概ね出そろったことや原油相場の反発を受けて、株式市場は上値重いながらもひとまず一服している模様。一方国内では、政府がエイプリルフールに発表した各ご家庭にマスク2枚を送りつけるという奇策が国民の神経を逆撫で。アベノマスクという珍妙なフレーズがオーバーシュート気味に報じられる中、今週は2月締め企業の決算発表や緊急事態宣言発令への警戒感、緊急経済対策期待もあり、国内マーケットはやや神経質か。

また、にわかに注目度を増した米週間新規失業保険申請件数が2週で約1000万件と驚愕の数字となり、5月8日発表の米雇用統計が警戒される。咳ひとつで皆うつらえる都心の電車のような心許ない地合いがまだまだ続きそうだ。新型コロナウイルスと同様、今後のマーケットは「適切な不安」を持ち、「正しく怖がる」ことが重要となる。

(チーフカスタマーディーラー 井口慶一)

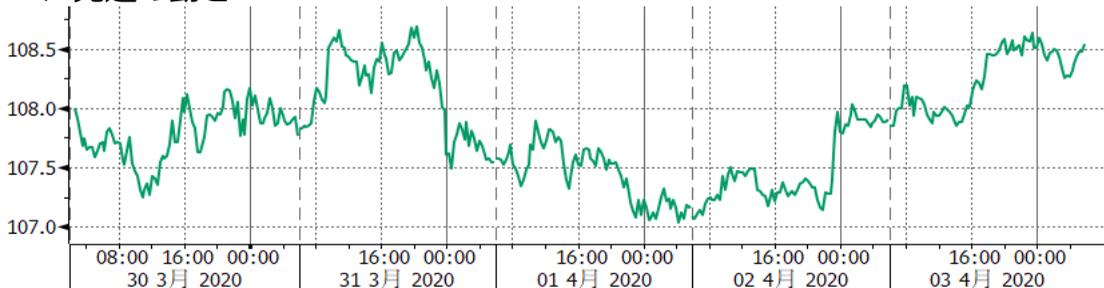
◆今週の日程

7日(火) 米 3年国債入札	9日(木) 米 4月ミシガン大消費者信頼感指数
8日(水) 日 2月機械受注	9日(木) 米 30年国債入札
8日(水) 日 3月景気ウォッチャー調査	10日(金) 他 聖金曜日(米国は為替市場を除き休)
8日(水) 米 10年国債入札	10日(金) 中 3月CPI・PPI
9日(木) 日 4月日銀地域経済報告(さくらレポート)	10日(金) 米 3月CPI

◆今週の予想 (ドル高 強い ↑ 普通 ↑ ドル安 強い ↓ 普通 ↓) NY引け値 4月3日(金) 108.55円 VS 10日(金)

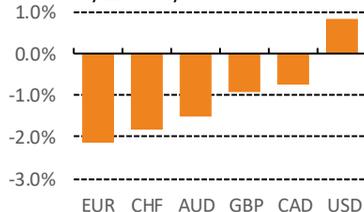
東京										大阪			埼玉			
尾股	中根	湊	井口	鳥井	田中	浦本	中里	伊藤	佐藤	鈴木	武富	野瀬	小林	津田	石井	伊藤
↓	↓	↑	↓	↓	↓	↓	↓	↑	↑	↓	↓	↓	↑	↑	↑	↓

◆先週の動き



主要通貨対円パフォーマンス

3/27→4/6



出所：Bloomberg

◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

りそな WEEKLY COLUMN

世界中に広がるロックダウン

- 最初にロックダウン（都市封鎖）を実行した中国では、生産活動が再開
- 都市のロックダウンは経済への打撃は大きいですが、明るい面もある
- グローバル経済は供給ショックから需要ショックへ

りそな銀行 総合資金部
朱 文来

新型コロナウイルスは世界中に広まり、感染拡大を防止のため、都市封鎖（以下、ロックダウン）に追い込まれているケースが散見される。ロックダウンはウイルスの拡散に一定の効果がある一方で、経済への打撃も無視できない。東京のロックダウンの可能性が指摘されているなか、以下で影響について論じたい。

中国では生産活動が再開

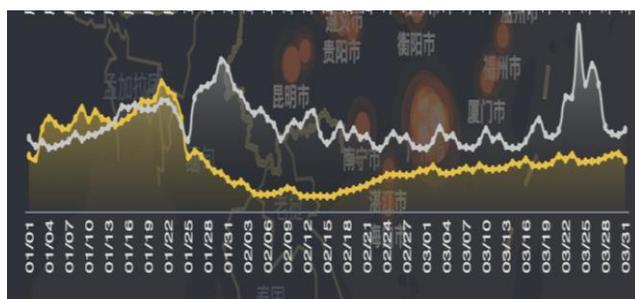
2月17日付の本コラムで書いたように、世界で一番最初にロックダウンを実行したのは中国の湖北省である。2か月ほどのロックダウンを経て、中国では感染者の増加は収束しており、確実にその効果を見せている。

科学誌「サイエンス」で発表された研究（※1）では、1月23日に始まったロックダウンは、①他都市へのウイルス拡散を2.91日遅らせたこと、②ロックダウンした都市は、ウイルスが拡散した第1週目に、しなかった都市と比較して感染事例が33.3%減少したこと、③最も有効なロックダウン政策は、市内交通の停止、人の集まりの禁止であったこと等が指摘されている。

現在、中国のロックダウンは解除され、生産活動は通常に戻りつつある。中国当局によると、3月28日時点の大企業の復帰率は98.6%、中小企業の復帰率は76%である。湖北省にある日系自動車メーカーも生産活動が再開していると報じられた。地図アプリのビッグデータによると、中国の都市間の移動は前年同期比ほぼ同じレベルに戻っており、上海市内の人々の移動も前年と同水準にある。

※1 <https://science.sciencemag.org/content/early/2020/03/30/science.abb6105>

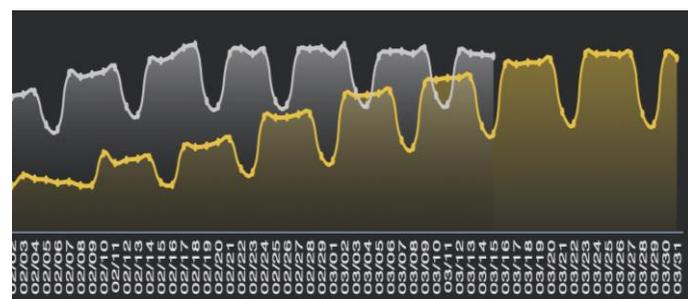
図表1：中国全国都市間人員移動インデックス



黄色
：今年

灰色
：前年

図表2：上海市内的人员移動インデックス



(出所) Baidu

◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていないととにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願いいたします。

りそな WEEKLY COLUMN

ロックダウンは経済への打撃は大きい、明るい面もある

こうした中国のロックダウンからどのような示唆があるであろうか。はっきりしているのは、主要都市の経済への打撃は避けられないということである。特に、外食関連、旅行関連など、人々の移動と直接かかわる産業は、直接的に影響を受けやすく、他の産業へ波及する可能性が高い。

一方、経済にとってすべてが暗い話という訳ではない。人々が移動を自粛すると、自宅にいる時間が増えるため、食料品のデリバリー、オンラインショッピングなどの需要が増える。また、リモートワーク、リモート授業の需要が多くなるため、こういったITインフラ開発の需要も高くなる可能性がある。

中国で小学校の教師をしている筆者の母によると、子どもたちはまだ学校には行けていないものの、すでに携帯を利用したリモート授業に参加している。このようなリモート授業のサービスを提供する企業は恩恵を受けやすい。

グローバル経済は、供給ショックから需要ショックへ

中国の生産活動は回復に向かいつつあるとはいえ、グローバル経済がすぐに回復できるとは限らない。新型コロナウイルスが中国で感染拡大した際、政府は感染拡大を阻止するために、ロックダウンといった強力な措置をとったため、企業は活動停止した。グローバルサプライチェーンで重要な位置にある中国は製品・部品の生産・出荷ができなくなり、グローバル経済は供給ショックに直面した。

現在、中国の生産活動の回復とともに、供給ショックはある程度落ち着いてきている。しかし、新型コロナウイルスは中国以外の国で感染が拡大しており、特に世界最大の需要国である米国で深刻となっている。問題は供給ショックから需要ショックにシフトしていると言える。

2008年のグローバル金融危機と比べ、今回のコロナショックはより直接的に实体经济に悪影響を与えている。新型コロナウイルスはいずれ終息するだろうが、一度止まってしまったグローバル経済の歯車が、再び動き出すには時間がかかりそうだ。金融市場も、企業もこのような状況を前提として行動することが重要ではないだろうか。

